

フラワーガーデン



園芸総合センター
田辺 和司

ガーデニングも土づくりから

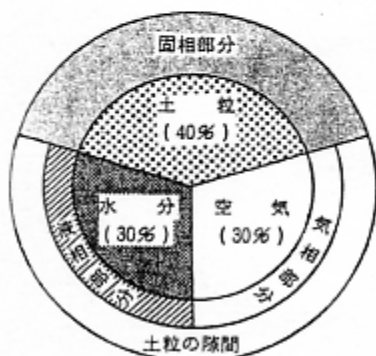


図1 健全な土壌の三相分布

よく、苗半作と言われ、良い苗を作ることができれば半分できたようなもの、あるいは、苗が悪ければ半作しかできないというように苗作りの重要性が言い表されておりますが、それと同じように大事なのが土づくりです。

一 土づくりは何故必要か

植物は、生長するのに必要な水分や養分を主に根から吸収するので、根が健康にスクスク育つような土壌環境を作ってやるのが大切です。

畑などの土の中は、図一に示したように大まかに言えば、土の部分が四割、水の部分が三割、そして空気の部分が三割程度が良いとされています。

つまり、土が四割に対し、隙間が六割あり、この隙間は、水をかけると水で一杯になり、乾いてくると空気で一杯になるという具合に常に変化しています。

そして、植物の根は、この空気や水から酸素を吸って呼吸するとともに、土や肥料から水に溶け出した養分や水分を吸収しながらグングン生長しています。



図2 コンテナ栽培の土壌

特に、鉢やプランターなどのコンテナ栽培では、根の伸びられる範囲が限られており、図二のようにコンテナ内の狭い空間はすぐに根で一杯になることから、養水分や酸素が欠乏しやすい状態になります。

そこで、これらコンテナ栽培では、一般の畑よりさらに隙間の部分を多くして通気性を確保するとともに、少しでも保水性や保肥力を高くするように土づくりをする必要があります。

二 よい用土の条件は

①水はけ、通気性がよいこと

根は盛んに呼吸しているのです、水はけ、通気性が悪いとすぐに酸素不足となり、根ぐされを起こします。

水はけや通気性のよい土を作るためには、みじんを除くとともに、砂、赤玉土、パーライト、くん炭、堆肥などの資材を利用し植物に合せて配合します。

②水もちがよいこと

植物体の八〜九割は水分です。

また、天気の良い日には、葉や茎から盛んに水分を蒸散するので、次々水分を補給する必要があるります。

保水性を高めるためにはビートモスや堆肥類をすき込みます。

③保肥力が大きいこと

植物が健全に生育するためには、十六種類の成分が必要です。その内、酸素・炭素・水素は、空気や水から吸収できますが、残りの十三成分は、土壌中にある成分を根から吸収します。

しかし、土壌の保肥力が小さいと、養分は降雨や灌水によって流れてしまいます。

また、特にコンテナ栽培においては、夏場は灌水が多いことから肥料成分の流亡も多くありません。

そこで、やや粘質な土や堆肥類を配合し、肥料成分を保持する力

を大きくします。

④酸度(pH)が適正であること

多くの植物の

生育には、pH六〜六・五程度が適していますが、種類によっては、やや酸性やアルカリ性を好むものもあります(表一)。

しかし、土壌が酸性やアルカリ性に片寄り過ぎると、根が傷んだり養分の欠乏症や過剰症が発生しやすくなるので、適正なpHに調整します。

酸性過ぎるpHを調整するには、苦土石灰や炭カルをすき込みます

(表二)。また、石灰類を施用する場合は、堆肥と一緒に施用すると

表1 花きの種類と好適土壌酸度 (鶴島, 1983に加筆)

酸度(pH)	適する花きの種類
強酸性(5以下)	ツツジ、アザレア、ガーデニア、ペゴニア類、アジアタム、ネフロレピス、アナナス、スズラン、アゲラタム、カラー、クレマチス、シャクナゲ、ツバキ、アジサイ(青) など
弱酸性(5~7)	キク、バラ、ユリ、シクラメン、カラー、ポインセチア、フクシア、ハナショウブ、キンギョソウ、パフィオペディウム、シンビジウム、カーネーション、ストック、ペチュニア、チューリップ、インパチェンス、スイセン、パンジー、ゼラニウム、ダリア など
中性(7)	ジニア、マリーゴールド、プリムラ類、マーガレット、アスター など
アルカリ性(7以上)	キンセンカ、シネリア、ゼラニウム、ガーベラ、スイートピー、ジャーマンアイリス、ピラカンサ など

堆肥からアンモニアガスが発生するので、まず、堆肥をすき込み、一週間後ぐらいに石灰類をすき込むようにします。

一方、アルカリ性の用土を改善

表2 pH(H₂O)を6.5にするための炭カル量(CaCO₃) (土壌の深さ10cm当たり)kg/10a (g/m²)

石灰施用前のpH(H ₂ O)	砂質土	壤土	埴壤土	備考
4.5	180	260	310	苦土石灰の場合は炭カル同量
5.0	150	210	260	消石灰(純度80%)の場合は20%減量
5.5	120	160	200	腐植質火山灰土は埴壤土の1.5~2倍と考えればよい
6.0	90	130	150	300kg以上は2回に分施

するのはなかなか困難ですが、過磷酸石灰、硫酸黄華、ビートモスなどを投入するか、ややアルカリ性を好む花やホウレンソウなどを栽培するのもよいでしょう。